
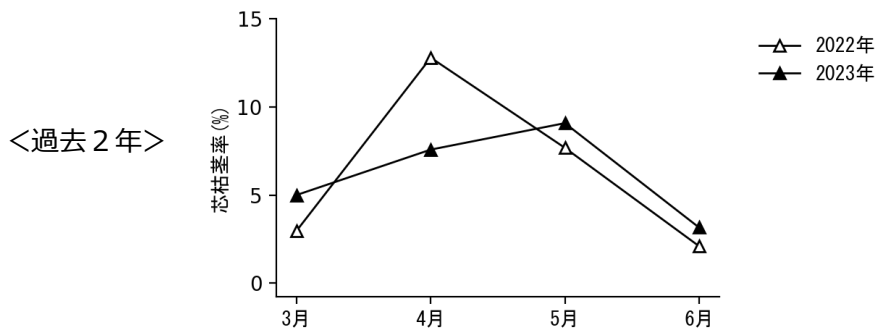
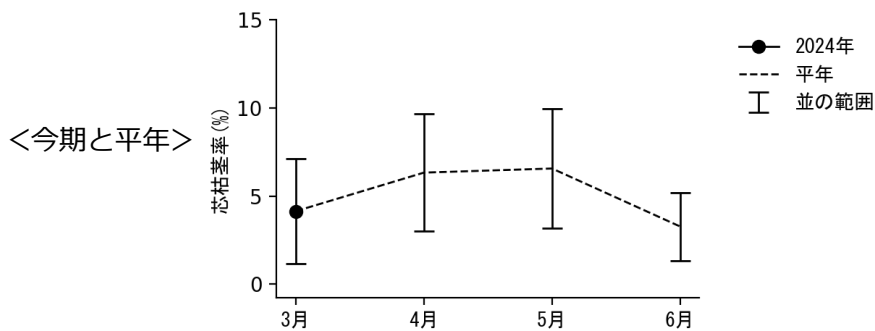


作物	さとうきび	地域	宮古群島
病害虫名	① メイチュウ類		
調査結果	3 月の発生量 (平年比)	並	
予報	3 月からの増減傾向	↗	
	4 月の発生量 (平年比)	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↗)	

調査結果


芯枯茎率の推移 (株出し)



・発生ほ場率100% (平年 : 91.9%)

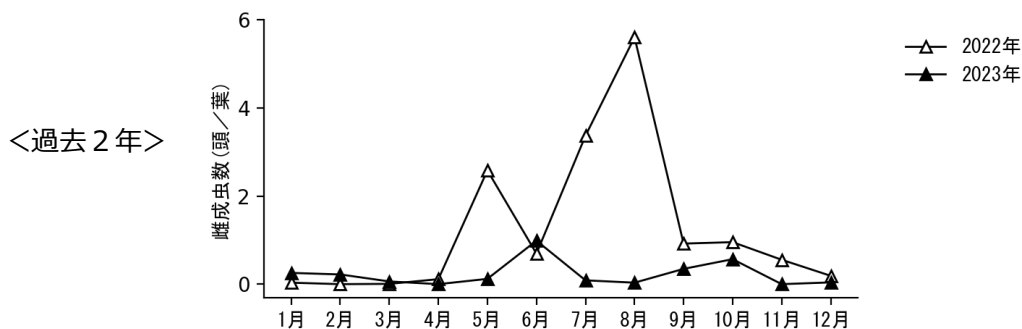
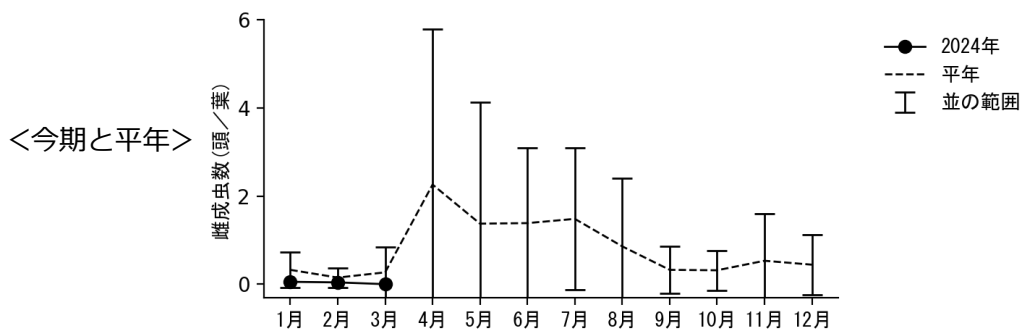
防除のポイント

- ・ふ化した幼虫は、葉裏や葉鞘部から下部に移動した後、地上部の芽や根帯から食入し、生長点を加害して芯枯れを起こさせ茎を枯死させる。
- ・ほ場内外のイネ科雑草は発生源となるため除去する。
- ・加害による芯枯れを防止し有効茎を確保するため、培土時および生育初期の防除を徹底する。
- ・培土時に土壌害虫の防除を兼ねた薬剤(粒剤)を選択し施用する。
- ・茎葉への乳剤は、葉鞘内に薬液がきちんと浸透するように丁寧に散布する。

作物	マンゴー	地域	宮古群島
病害虫名	ハダニ類		
調査結果	3 月の発生量 (平年比)	(発生なし)並	
予報	3 月からの増減傾向	↗	
	4 月の発生量 (平年比)	並	
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↗)	

調査結果

雌成虫数の推移



・発生施設率0% (平年：26.0%)

防除のポイント


- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。



ハダニの寄生による葉のかすれ症状

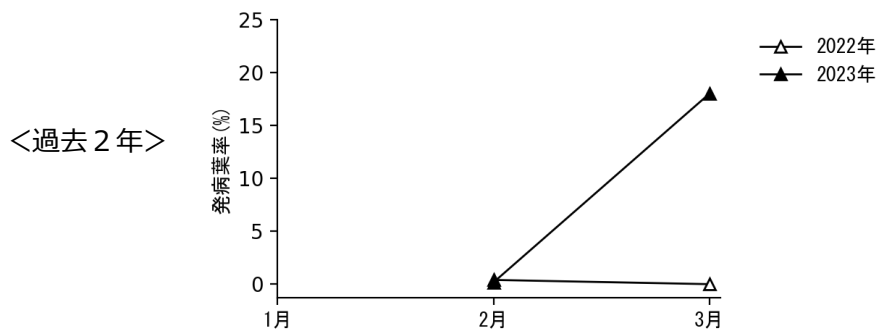
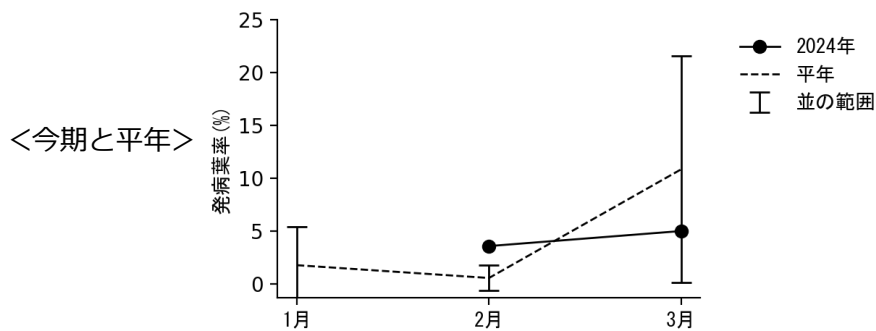


マンゴーツメハダニ

作物	かぼちゃ	地域	宮古群島
病害虫名	斑点・褐斑細菌病		
調査結果	3 月の発生量（平年比）	並	
予報	3 月からの増減傾向	—	
	4 月の発生量（平年比）	—	
予報の根拠			

調査結果


発病葉率の推移



・発生ほ場率80.0%（平年：38.8%）

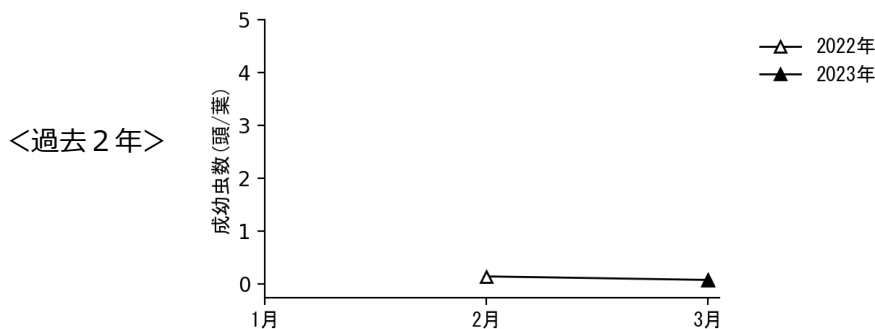
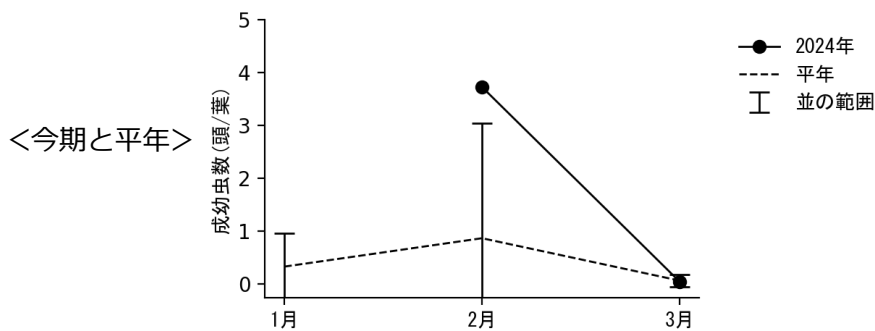
防除のポイント

- ・強風による葉ずれ等の傷口から感染するため、防風垣（ソルゴーや防風ネット等）を設置する。
- ・降雨や強風などの気象条件が続くと急激に広がる場合があるので、強風降雨の後は薬剤散布を行う。

作物	かぼちゃ	地域	宮古群島
病害虫名	アブラムシ類		 <p>有翅虫</p>
調査結果	3 月の発生量 (平年比)	並	
予報	3 月からの増減傾向	—	
	4 月の発生量 (平年比)	—	
予報の根拠			

調査結果

成幼虫数の推移



・発生ほ場率80.0% (平年 : 30.0%)

防除のポイント

- ・アブラムシ類はズッキーニ黄斑モザイクウイルスやパパイヤ輪点ウイルス等を媒介する。
- ・多くの雑草が発生源となりうるので、ほ場周辺の雑草除去に務める。
- ・ほ場周辺に防風対策を兼ねた防虫ネットやソルゴー等を設置し、有翅虫の飛来侵入を防ぐ。
- ・葉裏をよく観察し、早期発見・防除に努める。

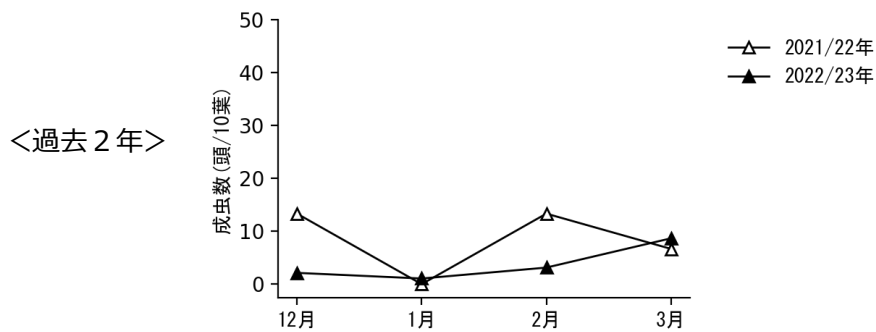
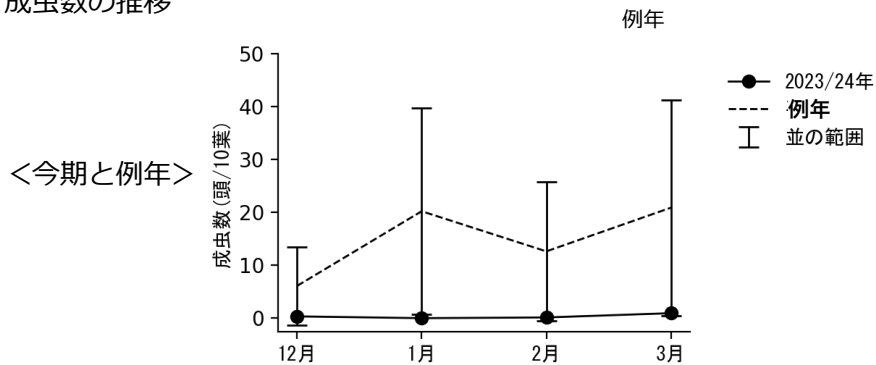


無翅虫

作物	さやいんげん(施設)	地域	宮古群島
病害虫名	タバココナジラミ		 <p>成虫</p>
調査結果	3 月の発生量 (例年比)	並	
予報	3 月からの増減傾向	—	
	4 月の発生量 (例年比)	—	
予報の根拠			

調査結果

成虫数の推移




・発生施設率80.0% (例年：41.7%)

防除のポイント

- ・多くの雑草が発生源となりうるので、施設内外の雑草除去に努める。
- ・施設の出入口や天窗は目愛の細かいネット等で被覆し、成虫の侵入を防ぐ。
- ・黄色粘着テープ等により、早期発見・防除に努める。
- ・幼虫は下位葉の葉裏に多いことに留意しながら薬剤散布を行う。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避け、気門封鎖系等の薬剤も利用する。

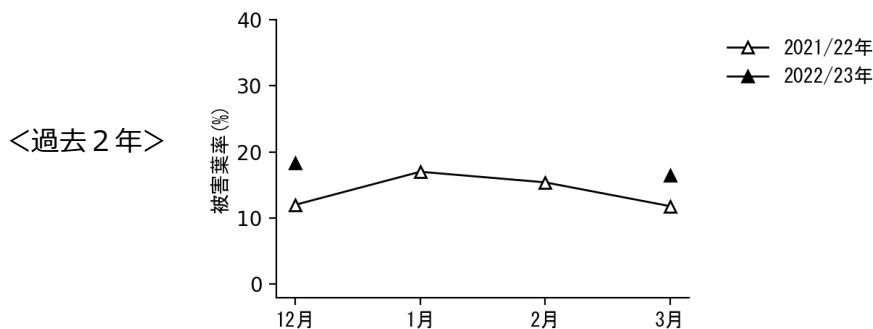
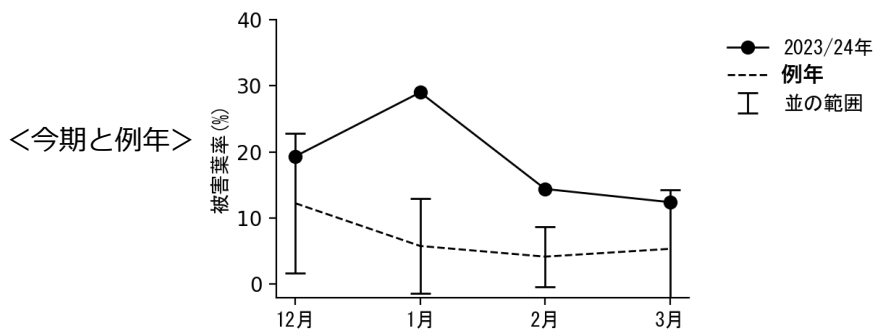


幼虫

作物	さやいんげん(施設)	地域	宮古群島
病害虫名	ハモグリバエ類		
調査結果	3 月の発生量 (例年比)	並	
予報	3 月からの増減傾向	—	
	4 月の発生量 (例年比)	—	
予報の根拠			

調査結果

被害葉率の推移



・発生施設率20.0% (例年 : 37.5%)

防除のポイント

- ・摘葉等による残さは発生源となるので、施設外に持ち出し処分する。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。
- ・在来天敵が存在するため、天敵に影響の少ない選択性殺虫剤を使用する。

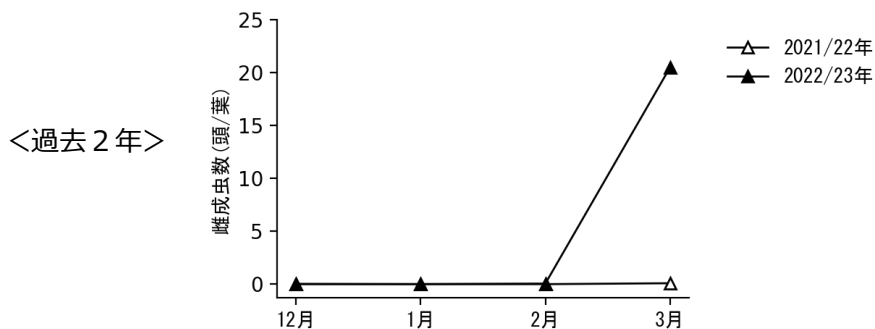
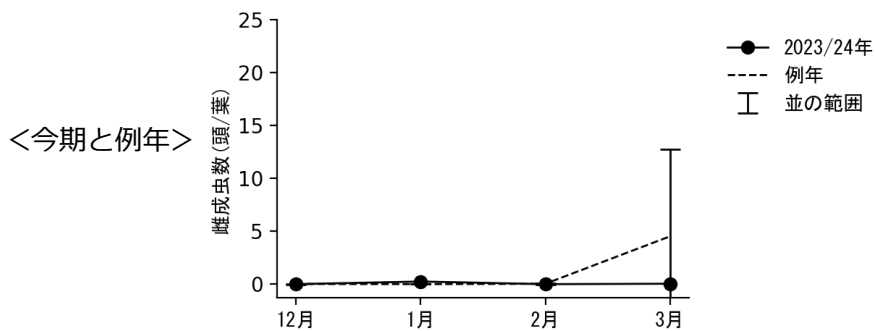


被害葉

作物	さやいんげん(施設)		地域	宮古群島
病害虫名	ハダニ類			
調査結果	3 月の発生量 (例年比)	並		
予報	3 月からの増減傾向	—		
	4 月の発生量 (例年比)	—		
予報の根拠				

調査結果


雌成虫数の推移



- ・発生種：ミヤラナミハダニ
- ・発生施設率20.0% (例年：31.6%)

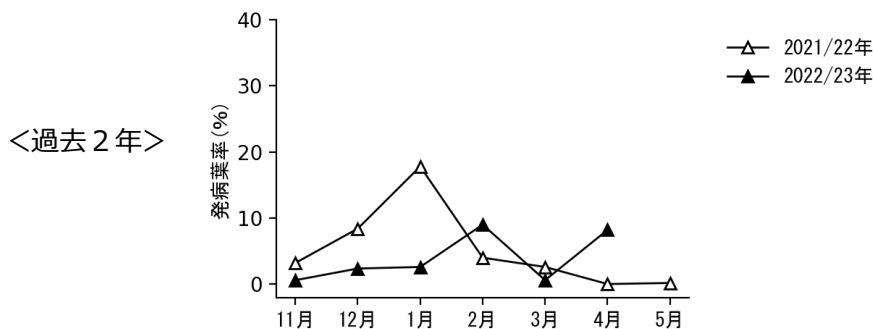
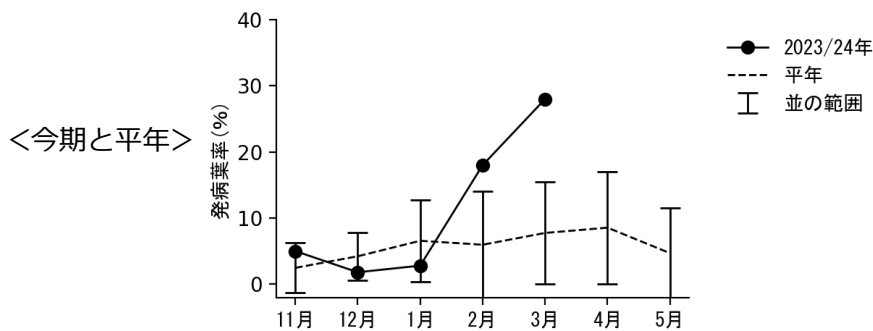
防除のポイント

- ・葉裏に多いことに留意しながら、丁寧に薬剤散布する。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

作物	ニガウリ(施設)		地域	宮古群島
病害虫名	① うどんこ病			
調査結果	3 月の発生量 (平年比)	やや多		
予 報	3 月からの増減傾向	→		
	4 月の発生量 (平年比)	やや多		
予報の根拠		平年の発生量の推移 (→)		

調査結果

発病葉率の推移




・発生施設率60.0% (平年 : 44.0%)

防除のポイント

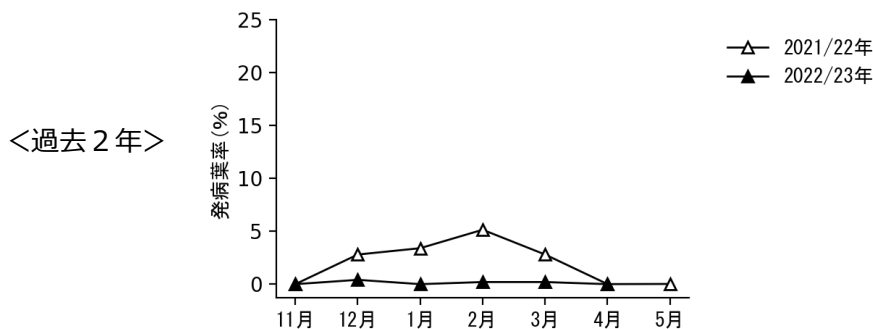
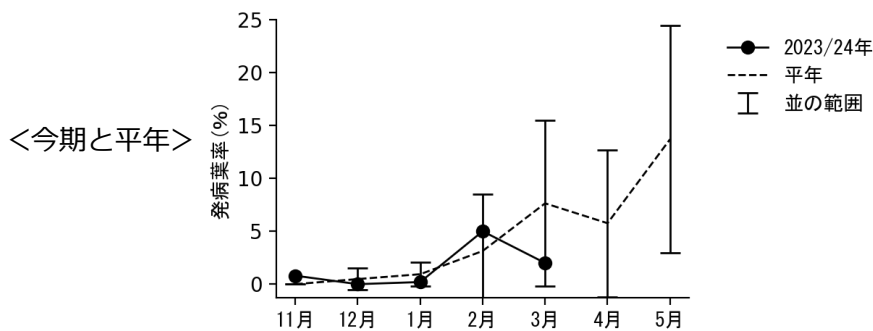
- ・多湿条件で発生し、その後乾燥が続くと被害が拡大するため、湿度管理に注意する。
- ・過繁茂を避け、透光通風を良くする。
- ・老葉や病葉は伝染源になるので除去し、施設外に持ち出し処分する。
- ・多発すると防除が困難になるため、予防散布に重点をおく。硫黄粉剤による予防は効果が期待できる。



作物	ニガウリ(施設)		地域	宮古群島
病害虫名	② 斑点病			
調査結果	3 月の発生量 (平年比)	並		
予報	3 月からの増減傾向	↘		
	4 月の発生量 (平年比)	並		
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↓)		

調査結果


発病葉率の推移



・発生施設率60.0% (平年 : 50.0%)

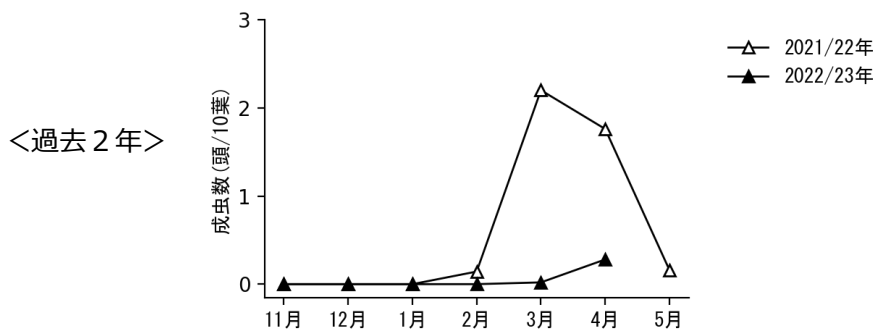
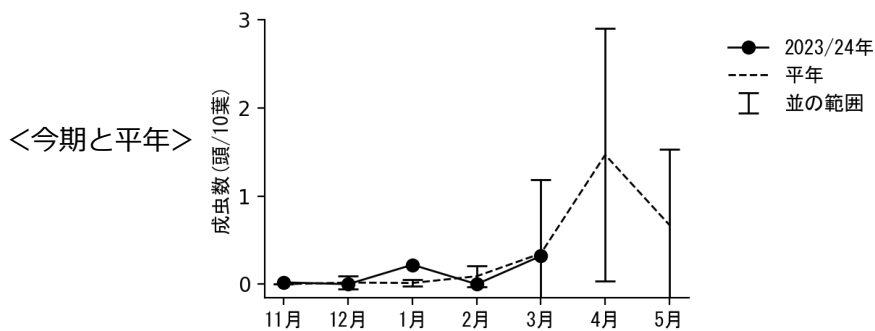
防除のポイント

- ・葉には周囲が黄色で中央が灰色の円形病斑を形成し、果実では表面にすす状のカビを生じる。
- ・多湿条件で発生が助長されるため、湿度管理に注意する。
- ・過繁茂を避け、透光通風をよくする。
- ・老葉や病葉は伝染源になるので、施設外に持ち出し処分する。
- ・雨漏りする場所での発生が多くなるため、ビニールの破れ等は補修する。

作物	ニガウリ(施設)		地域	宮古群島
病害虫名	③ ミナミキイロアザミウマ			
調査結果	3 月の発生量 (平年比)	並		
予報	3 月からの増減傾向	↗		
	4 月の発生量 (平年比)	並		
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↗)		

調査結果


成虫数の推移



・発生施設率40.0% (平年 : 18.0%)

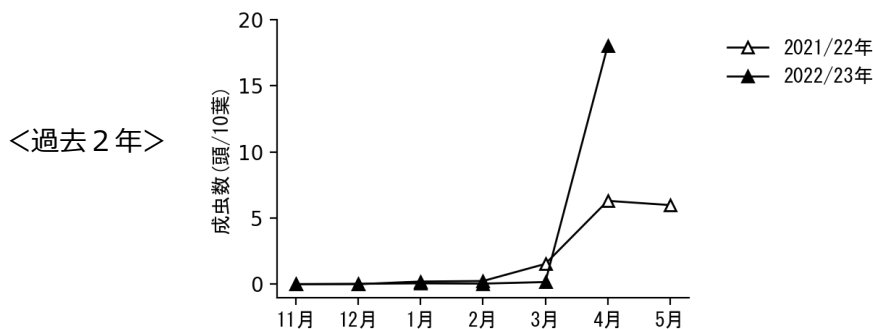
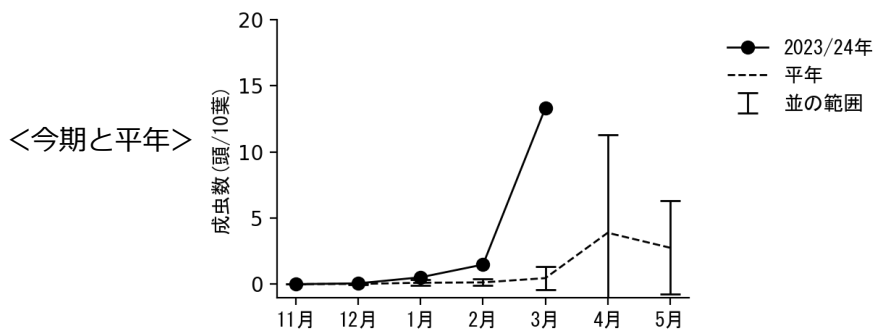
防除のポイント

- ・本種は吸汁により果実表面にケロイド状の被害を生じるほか、スイカ灰白色斑紋ウイルスを媒介する。
- ・多くの雑草が発生源となりうるので、施設内外の雑草除去に努める。
- ・施設の出入口や天窓は目合いの細かいネット等で被覆し、成虫の侵入を防ぐ。
- ・多発すると防除が困難になるので、つる先や葉裏をよく観察し、早期発見・防除に努める。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

作物	ニガウリ(施設)		地域	宮古群島
病害虫名	④ タバココナジラミ			 <p>成虫</p>
調査結果	3 月の発生量 (平年比)	やや多		
予報	3 月からの増減傾向	↗		
	4 月の発生量 (平年比)	やや多		
予報の根拠		平年の発生量の推移 (↗)		

調査結果

成虫数の推移




・発生施設率20.0% (平年：24.0%) 一部施設で多発

防除のポイント

- ・多くの雑草が発生源となりうるので、施設内外の雑草除去に努める。
- ・施設の出入口や天窓は目合いの細かいネット等で被覆し、成虫の侵入を防ぐ。
- ・黄色粘着テープ等により、早期発見・防除に努める。
- ・幼虫は下位葉の葉裏に多いことに留意しながら薬剤散布を行う。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避け、気門封鎖系等の薬剤も利用する。

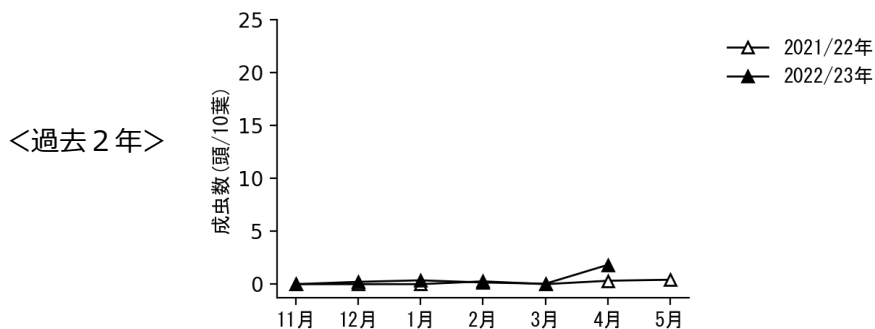
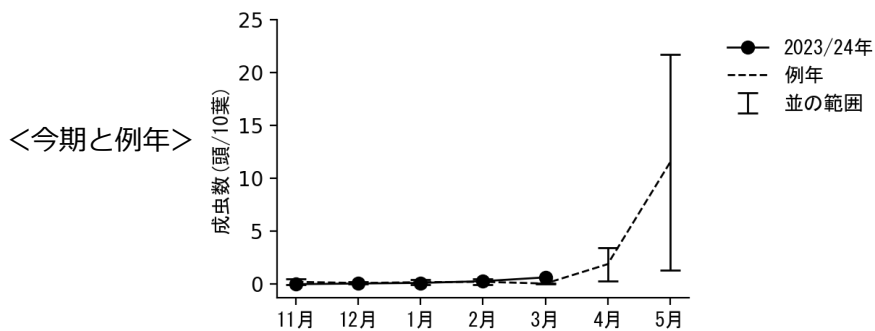


幼虫

作物	とうがん(施設・立体栽培)	地域	宮古群島
病害虫名	① ミナミキイロアザミウマ		
調査結果	3 月の発生量 (例年比)	やや多	
予報	3 月からの増減傾向	↗	
	4 月の発生量 (例年比)	並	
予報の根拠		例年の発生量の推移 (↗)	

調査結果

成虫数の推移

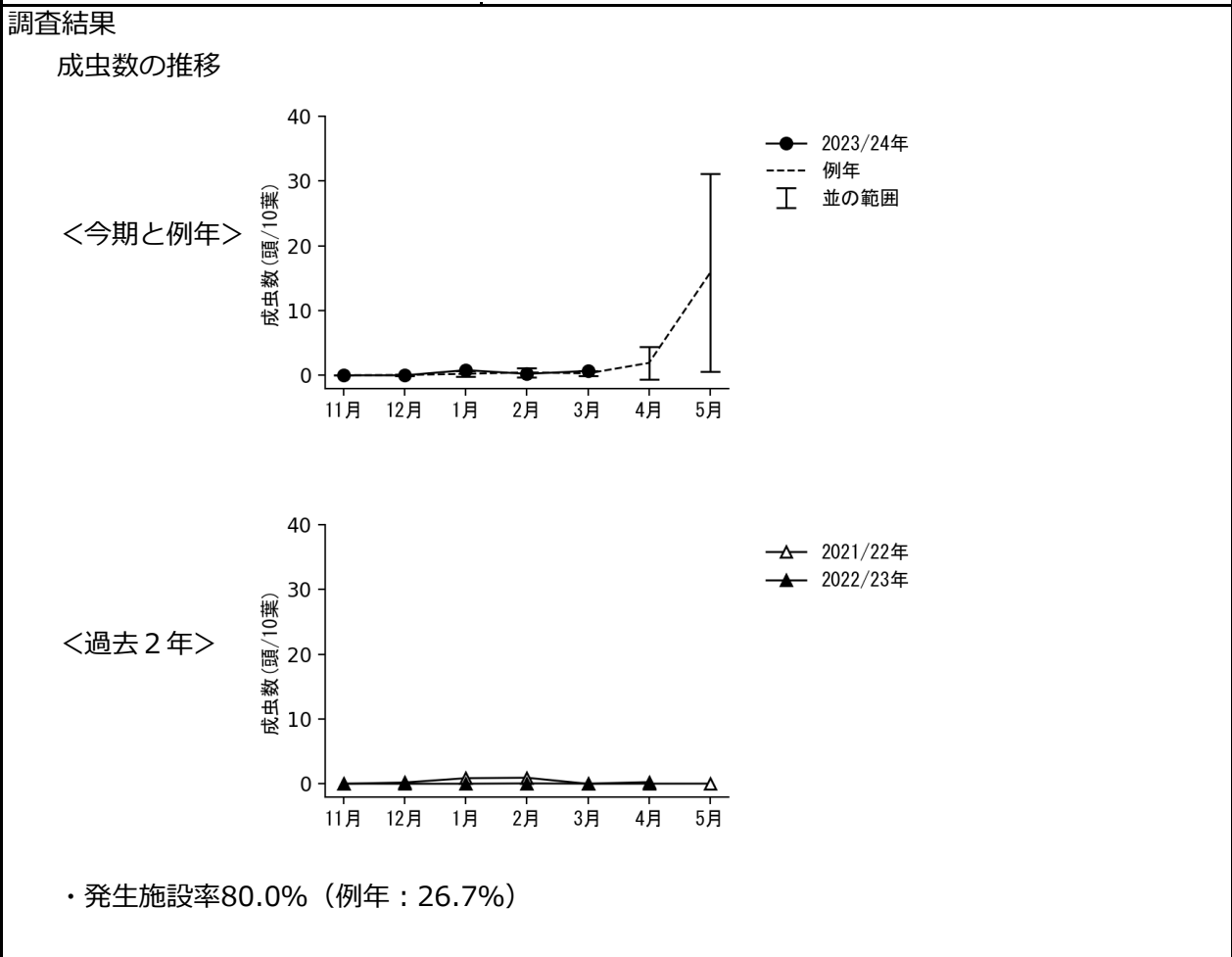


・発生施設率80.0% (例年：26.7%)

防除のポイント

- ・本種はスイカ灰白色斑紋ウイルスを媒介する。
- ・多くの雑草が発生源となりうるので、施設内外の雑草除去に努める。
- ・施設の出入口や天窓は目合いの細かいネット等で被覆し、成虫の侵入を防ぐ。
- ・多発すると防除が困難になるので、つる先や葉裏をよく観察し、早期発見・防除に努める。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

作物	とうがん(施設・立体栽培)	地域	宮古群島
病害虫名	② タバココナジラミ		
調査結果	3 月の発生量 (例年比)	やや多	
予報	3 月からの増減傾向	↗	
	4 月の発生量 (例年比)	並	
予報の根拠		例年の発生量の推移 (↗)	




防除のポイント

- ・多くの雑草が発生源となりうるので、施設内外の雑草除去に努める。
- ・施設の出入口は目合いの細かいネット等で被覆し、成虫の侵入を防ぐ。
- ・黄色粘着テープ等により、早期発見・防除に努める。
- ・幼虫は下位葉の葉裏に多いことに留意しながら薬剤散布を行う。
- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避け、気門封鎖系等の薬剤も利用する。

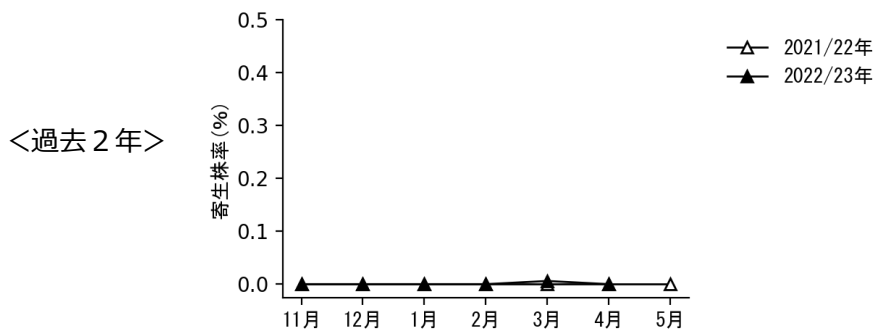
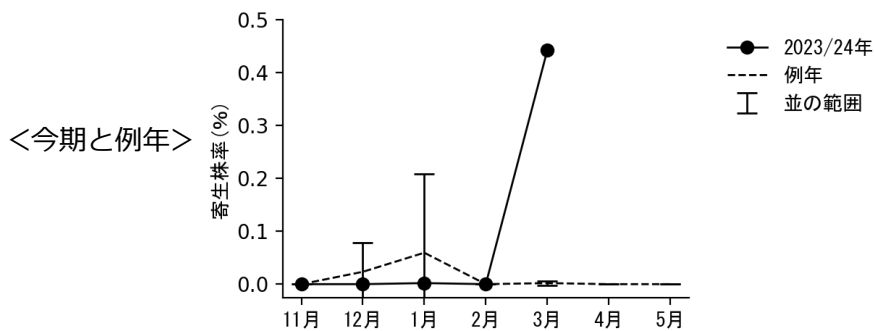


幼虫

作物	とうがん(施設・立体栽培)	地域	宮古群島
病害虫名	③ ハダニ類		
調査結果	3 月の発生量 (例年比)	やや多	
予報	3 月からの増減傾向	→	
	4 月の発生量 (例年比)	やや多	
予報の根拠		例年の発生量の推移 (→)	

調査結果

寄生株率の推移



・発生施設率20.0% (例年：6.7%) 一部施設で多発

防除のポイント

- ・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。